

< 研究成果の紹介 >

盆前出荷を目指した水稲極早期栽培適地マップを作成

作物グループ

1. 成果の内容

三重県の稲作は「コシヒカリ」の作付けを中心とした早場米地域であり、「コシヒカリ」の主産地として有名な新潟県、北陸地方などに比べ早い収穫・出荷を行っています。コメ生産が過剰基調である現在、他県より少しでも早く新米を出荷することは、県産米の販売上の大きなメリットとなります。

温暖な気候の志摩、紀州地域の一部では、以前から「なつたより」「あきたこまち」などの極早生品種を使って、盆前に出荷を狙った極早期栽培が取り組まれています。これらの極早期栽培の面積を拡大し、県下に普及させるため、極早期栽培の適地マップを作成しました。

まず、三重県の極早生推奨品種である「ナツヒカリ」を使い、移植期と出穂期の関係を数年間調べることによって、気温をパラメーターとした出穂期予測プログラムを作りました。そしてこのプログラムを利用して、平均気温の平年値から、「ナツヒカリ」乳苗を4月10日に移植した場合の各地の出穂時期を予測しました(図参照)。栽培試験の結果から「ナツヒカリ」の出穂期から成熟期までの期間が約35日間であり、盆前出荷が可能な8月10日頃に収穫するためには、7月5日までに収穫を迎える地域(地図上では桃色と黄色、ただし桃色の地域の大部分は海岸で水田はほとんど存在しない)が極早期栽培の適地と考えられます。

2. 技術の適用効果と適用範囲

適地が明らかとなったことで、盆前出荷を目標とした極早期栽培の面積拡大が期待できます。また、極早生品種は一般的に感温性が高いことから、気温に基づいたこの極早生適地マップは「ナツヒカリ」以外の極早生品種にも応用できると考えられます。

3. 普及・利用上の留意点

この適地マップは、低温活着性に優れた乳苗を4月10日に移植した栽培を前提に作成されています。一般的な稚苗をこの時期の移植した場合、植痛みが発生する危険があり、成熟期がかえって遅れる可能性があります。また、4月10日より早く移植できる温暖な気候の地域ではさらに成熟期が早まると考えられます。

(神田幸英)

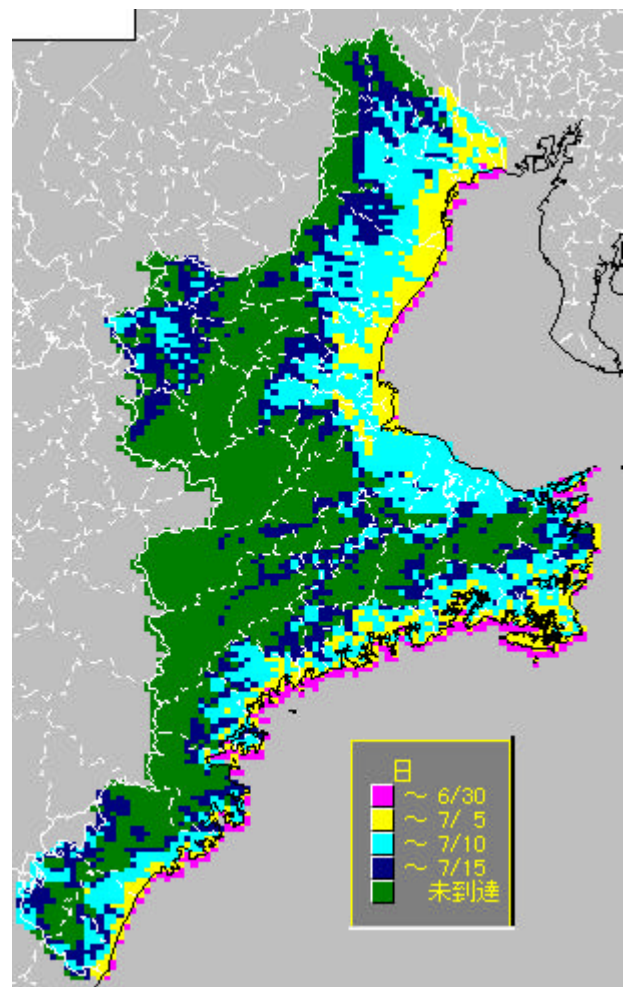


図 水稲極早期栽培適地マップ

注)「ナツヒカリ」の乳苗を4月10日に移植した場合の出穂期を色別に表示した。7月5日までに収穫する地域は、図中の桃色と黄色のエリアである。但し図中には水田以外の土地も含まれており、桃色の大部分は砂浜と推察されるので、実際には6月中に収穫するエリアは存在しない。